

議題 「IMURO祭の発信のしかたを考えよう」 (学級活動(1)ア 学校や学級における生活上の諸課題の解決)

1 目指す児童の姿と付けたい資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の意見を活発に発表して、全員で活発な話し合いができるようにしたい。 ○ 出された意見のよさを生かしたり、考えをつなげたりして、よりよい意見が出るようにしたい。 ○ 今までの成果や課題を生かした話し合いや活動にしたい。 		
協働性	主体性	創造性
他者と協力して課題に取り組み、自分の役割を果たそうとする。	成果と課題を振り返り、自ら次の活動に生かそうとする。	新しい考えや活動のアイデアを生み出そうとする。



3 評価規準			
観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合っ て実践している	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。
目指す児童の姿	意見の比べ方やまとめ方を理解し、活発な話し合いをしている。	これまでの集会活動の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、新しい活動や発信するための方法や工夫について考えている。	活動の成果と課題を振り返り、自他のがんばりに気付き、次の活動に生かそうとしている。

2 題材について
(1) 児童の姿 本学級の児童は、互いを理解しながら、安心して過ごしている。話し合い活動では、互いの意見を尊重し、認め合うことができるようになってきている。 一方、単学級であるため、人間関係が固定化されている一面がある。そのため、話し合い活動においても、思いや考えを発言する児童が固定化されてしまい、発言した児童の意見すべてを認めようとする中で、新しい考えが生まれにくいことが課題である。
(2) 題材設定の理由 本議題は、「『IMURO祭』を多くの人に知ってもらいたい」という児童の願いを議題化したものである。感染症に伴い、本校を保護者や地域の方々へ発信する機会が減っている。「IMURO祭」をその機会とし、子どもたちは、多くの方々に参加していただくことによって、本校の取組や自分たちの活躍を見ていただきたいと願っている。そこで、「IMURO祭」を発信するために、自分たちにできることを学級会で話し合い、実践することとした。この活動によって、生活の中の課題を見つけ、自分たちで解決していく経験を積み重ねるとともに、地域の方々への愛着につなげることができると思う。
(3) 指導にあたって 事前の活動では、「IMURO祭」開催に向けて本校のよさを発信することが必要なことと感じられるようにし、話し合う必然性を醸成する。 本時の学習では、活発な話し合いができるように、自分の考えをワークシートに記入して、自信をもって発言できるようにしたり、よりよい意見や新しいアイデアが生まれるように、グループで話し合う場を設けたりする。 事後の活動では、全員で準備を分担して、協力して進めることで、自分たちで企画し、実践していく楽しさや充実感を味わえるようにしたい。

4 指導と評価の計画

